

1

文の構成要素

§ 1 品詞

品詞とは、単語の種類のことである。いわゆる、動詞、名詞、形容詞、副詞・・・のように分類されているものであり、名詞や動詞、形容詞や副詞などの大まかな分類は、日本語にも英語にも共通している。形容動詞・連体詞などは日本語だけにあり、前置詞や冠詞は英語だけにある品詞である。

英語の品詞は長い間 8 品詞に分類されていたが、現代英文法は冠詞と助動詞を独立した一品詞とみなし、10 品詞に分類しているので、それに従う。

また、品詞には活用するものとししないものがある。

< 品詞の基礎事項 >

名詞(noun)...人や事物の名を表す(Mary, music, swimming, world, book...)

Mary loves **music** very much.

Mr. Hayashi went **fishing**.

普通名詞・物質名詞・抽象名詞・集合名詞・固有名詞の 5 種類に分かれる。

可算名詞(数えられる名詞)と不可算名詞(数えられない名詞)がある。

可算名詞には単数形と複数形がある。

可算名詞

- ・普通名詞 book, car, train, bag
- ・集合名詞 family, class

不可算名詞(s をつけられず、常に単数扱い)

- ・物質名詞 water, air, coffee, oil
- ・抽象名詞 love, peace
- ・固有名詞 Tom, London

代名詞(pronoun)...名詞の代用品(he, myself, this, who, ...)

I like Tom because **he** is kind.

代名詞も名詞の 1 つとも考えられるが、英語の代名詞は、日本語の代名詞よりもはるかに使用頻度が多く、重要な働きを担っている。

人称代名詞・再帰代名詞・指示代名詞・疑問代名詞・不定代名詞・関係代名詞などがある。また、I, my, me のような、主格・所有格・目的格・独立所有格がある。

代名詞の種類

人称代名詞...she, he, I, you, we...

指示代名詞...it, this, these...

再帰代名詞...myself, yourself, ourselves...

その他...疑問代名詞、関係代名詞

*I (主格・私は) - my (所有格・私の) - me (目的格・私に、私を)

形容詞(adjective)...名詞を修飾する語。補語 C にもなる。

Mary has a **long** hair.

Mary's hair is long.

S V C

名詞・代名詞を修飾し、また補語 C になる。

名詞の前におく限定用法、および、**文の補語 (C)** になる (すなわち述語として主語がどんな状態かを述べる) 叙述用法の2つの使い方がある。

原級・比較級・最上級がある。(例・tall-taller-tallest)

冠詞(article)...名詞の頭にのせる語(a, an, the)

定冠詞(the)と不定冠詞(a, an)がある。

Look! There is **a** cat under the tree!

The cat is sleeping!

動詞(verb)...動作や状態を述べる(go, be, finish, sleep, laugh, wash, ...)

動作を表す動詞と状態を述べる状態動詞という分類がなされることもある。

活用がある。原形・現在形・過去形・現在分詞形・過去分詞形がある。

・ go(原形) go (現在形) went(過去形) gone (過去分詞)
going (現在分詞)

自動詞と他動詞がある。(例・raise 上げる【他動詞】 rise 上がる【自動詞】)

* なお、英語の動詞は、過去分詞や現在分詞になると形容詞の働きをしたり、動名詞になると名詞の仲間入りをしたり、不定詞では名詞、形容詞、副詞のいずれの働きもするようになる。日本語の場合、動詞の連用形が名詞になったりするのと同じである。

例 / 日本語 : 「釣る」(動詞) 釣り(名詞)

英語 : fish(動詞・魚を取る) fishing(名詞・釣り)

助動詞(auxiliary verb)...動詞を助ける(can, may, must, should, will, ...)

動詞の前で動詞を助ける語。可能・義務といった意味を付け加えるだけでなく、時制などをも支配する強力な助っ人である。

He can swim. (助動詞の後ろは動詞の原形。)

副詞(adverb)...動詞などを修飾する(slowly, always, very, seldom ...)

動詞をはじめ、形容詞・副詞・文全体などにかかって意味をそえる。

He speaks slowly.

He is very tall.

Fortunately, he didn't die.

接続詞(conjunction)...語と語、文と文等をつなぐ(and, but, when, although, ...)

語と語・句と句・節と節、文と文をつなぐ語である。

等位接続詞と従属接続詞とがある。

等位接続詞 Mountain is high **but** sea is deep.

従属接続詞 **Because** he was sick, he didn't go out.

前置詞(preposition)...名詞の前に置く(in, on, for, from, under, along, ...)

文字通り、名詞・代名詞の前に置く品詞である。動詞は動名詞(ing)に変えれば前置詞の後ろに置くことができる。

I went **to** Hokkaido **by** plane **with** my friends **for** sight seeing **in** April.

間投詞(interjection)...話し手の感情を表す(ah, oh, ouch, well, hello, ...)

「ああ」「おやまあ」「ええと」など、話し言葉の中で使われる。

3

5 文型

§ 1 自動詞と他動詞

動詞は自動詞と他動詞に分けられる。日本語では、自動詞と他動詞は、「リンゴが落ちる」「リンゴを落とす」のように、自動詞は「～が」の後に、他動詞は「～を」等の後ろにくることが非常に多い。少なくとも他動詞は、「～を」等の目的語を取ることができるもの、自動詞は目的語が取れないもの、と説明することができる。

英語でもこの概念は同じで、後ろに「～を」等の目的語を取れるものが他動詞、取れないものは自動詞と言える。しかし厳密に言えば、英語では、「すぐ後ろに目的語を置くことができるものが他動詞」である。前置詞を置いてから、「～を」に相当する語句を取る場合もあるが、これは他動詞とは見なさないで、この点に注意しよう。

〔例〕

自動詞...自らがその動作を行うことを示す（「～が」の後ろにくることが多い）

子供が育つ、 水が流れる、 ドアが開く

他動詞...他者に対する動作を示す（「～を」等の後ろに来ることが多い）

子供を育てる、 水を流す、 ドアを開ける

目的語を取れば他動詞、という概念は日英語で共通している。ただし英語では、動詞の後ろにすぐ目的語を置くことができるかどうかで、自動詞か他動詞かを区別する。

「～を」という意味を表すために前置詞を必要とするものは、自動詞とみなす。

なお、辞書等で、自動詞は **vi.**(verb intransitive)、他動詞は **vt.**(verb transitive)と表記される。

He killed the fly. (彼は蠅を殺した) kill(～を殺す)...他動詞

He laughed. (彼は笑った) laugh(笑う)... 自動詞

cf)He laughed at me. (彼は私を笑った) 前置詞を置かないと me を置けないので、laugh は自動詞

英語では、動詞が目的語や補語をとるか取らないかで、5つの文の型が決まる。これが5文型である。(表中の × は、目的語や補語を取るか取らないかを示す)

| 文型 | 動詞の種類 | 目的語 | 補語 | |
|----|----------|-----|----|---------------|
| | (完全)自動詞 | × | × | S + V |
| | (不完全)自動詞 | × | | S + V + C |
| | (完全)他動詞 | | × | S + V + O |
| | (完全)他動詞 | | × | S + V + O + O |
| | (不完全)他動詞 | | | S + V + O + C |

S = 主語 V = 動詞 O = 目的語 C = 補語

自動詞は、補語を必要としない完全自動詞と、必要とする不完全自動詞に分かれる。
他動詞も、補語を必要としない完全他動詞と、必要とする不完全他動詞に分かれる。

格文型の文例

第1文型 (SV) I run. I went.

第2文型 (SVC) He is a student. She looks very young.

第3文型 (SVO) Mary ate chocolates.

第4文型 (SVOO) Takashi gave me a watch.

第5文型 (SVOC) He made me angry. We kept the door open.

§ 3 第2文型：S + V + C

★ おなじみの **This is a pen.**や **My name is Taro Suzuki.** がこの文型の代表格。この文型で使われる動詞は不完全自動詞。完全でないのでそれを補うための語が必要である。それが補語 (Complement) である。この文型の文は、意味的には S=C になると覚えておこう。C になれるのは 名詞と形容詞およびその相当語句 である。

★ 第2文型 SVC で使われる動詞について

この文型で使われる動詞は次のように分類できる。

①状態「～である」「～のままである」型

| | | | |
|---------------|--------------|-----------------|------------------|
| ◆ be | ～である | ◆ lie | ～のままである [の状態にある] |
| ◆ keep | ずっと～のままである | ◆ stay | ～のままである |
| ◆ sit | (…の状態で)座っている | ◆ remain | いぜんとして～のままである |

例) He is very kind. (彼はとても親切だ)

The flowers still stay fresh. (その花はずっと新鮮なままだ)

(still は stay にかかる副詞。ここでは一緒に V とみなしたが、下線をひかずに M とみなしてもよい。)

②状態の変化「～になる」「判明する」型

| |
|---|
| ◆ <u>医者になる</u> → become a doctor |
| ◆ <u>暗くなる</u> → get dark |
| ◆ <u>足りなくな</u> (不足する) → run short |
| ◆ <u>本当になる</u> (実現する) → come true |
| ◆ <u>悪くなる</u> (腐る) → go wrong, go bad |
| ◆ <u>黄色になる</u> → turn yellow |
| ◆ <u>明らかになる</u> (=本当だとわかる) → turn out (to be) true |

例) He became a doctor. (彼は医者になった)

He got angry. (彼は怒った)

Leaves turn red in Autumn. (木の葉は、秋に赤くなる)

The rumor proved true. (そのうわさは、本当であると判明した)

③外見や様相、様態「～のように見える」「思われる」型

| | | | |
|-----------------|----------|----------------|-----------|
| ◆ appear | ～のように見える | ◆ look | ～に見える |
| ◆ seem | ～のように見える | ◆ sound | ～のように思われる |

◇「見える」が語源の look, seem, appear

You look happy today. (君は今日、幸せに見える＝幸せそうだね)

◇「聞こえる」が語源の sound

His story sounds strange, but it is true. (彼の話は奇妙に思えるが、本当だ)

<参考>

「～のように見える」は **look** + 形容詞, **look like** + 名詞になるので注意。

A. She looks happy today. (SVC 文型)

B. The mountain looks like a mountain.

④ 感覚動詞「～のように感じられる」型

| | | | |
|----------------|------------|----------------|-----------|
| ◆ feel | ～のような感じがする | ◆ smell | ～のおいがる |
| ◆ taste | ～の味がする | ◆ sound | ～のように聞こえる |

I feel lonely now. (私は今さびしい感じがする、私は今さびしい)

This flower smells sweet. (この花はにおいがる)

This chocolate tastes bitter. (このチョコレートは苦い味がする)

§ 4 第3文型：S + V + O

この文型の V は完全他動詞で、目的語 (O) を1つ取る。「...を～する」という日本語に訳されることが多い。5文型の中では比較的わかりやすい文型である。

O の位置にこられるのは、名詞・代名詞および名詞相当語句。名詞相当語句には、名詞句・名詞節があり、不定詞や間接疑問文などがくる。

Mary bought a car. (メアリーは車を買った)

He is taking pictures. (彼は写真をとっている)

I wanted to go to London. (私はロンドンに行きたかった)

*不定詞 to go が、wanted の目的語。

第3文型 SVO の重要点

O (目的語)を1つとる

目的語...日本語の「～を」「～に」にあたる、動作や状態の目的・対象を表す語

He loves music. (彼は音楽を愛する 愛する対象が、music である)

SVO の O になれるのは、名詞、名詞句、名詞節である

*名詞句には to 不定詞、名詞節には that 節や間接疑問文などがある

He studies art. (O は名詞)

He decided to enter the college. (O は不定詞すなわち名詞句)

I think that he is very rich. (O は that 節すなわち名詞節)

I wonder if he is happy now. (O は間接疑問文すなわち名詞節)

<参考>

目的語の訳し方としては、日本語の「～を」以外のものもあるので注意すること。以下のような動詞である。皆、他動詞である。

resemble 「～に似ている」 reach 「～に着く」 meet 「～に会う」

climb 「～に登る」 follow 「～の後をついていく」 など、

他にも後述の「意外な他動詞」参照。

SVO の V は完全他動詞。後ろに直接 O を置く。

I visited his house. (visit は他動詞。his house は目的語)

I went to his house. (went (go)は自動詞なので、前置詞 to が必要。
to his house は M と見なされる)

意外な他動詞

discuss 「～について討論する」 attend 「～に通う」 approach 「～に近づく」
marry 「～と結婚する」など、すべて他動詞なので、後ろに前置詞を置かずに目的語を取る。 × discuss about A (A について話し合う)や × marry with A (A と結婚する) は皆、誤りである。

O に句や節が来るときの注意点

think 目的語 (O) として that 節は取れるが、不定詞は取れない。

- I think that it will rain tomorrow.
 × I think to rain tomorrow.

want 不定詞は取れるが、that 節は取れない。

- I want to eat Sushi tonight.
 × I want that I eat Sushi tonight.

think, hope, wish は「名詞だけ」の目的語は取れず、前置詞が必要。
 (不定詞や that 節なら前置詞は不要。)

- I thought of you.
 × I thought you.

- We hoped for his success.
 × We hoped his success.

think「～と思う」hope「～だといいと思う」want・wish「～したいと思う」be sure「きっと～だと思う」be afraid「～ではないかと思う」の6つの「思う」で後ろに目的語、不定詞、that 節をとれるかどうかを確認してみると次のようになる。

| 「思う」動詞 | 目的語 | 不定詞 | that 節 |
|------------|-------------|-----|--------|
| think | × (of が必要) | × | |
| hope, wish | × (for が必要) | | |
| want | | | × |
| be sure | × (of が必要) | | |
| be afraid | × (of が必要) | | |

このように動詞によって異なるので、英作文の時などは辞書で確認しよう。